

第 2 号 議 案

平成22年度事業報告及び収支決算について

(財)こうべ市民福祉振興協会は、「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念である市、事業者及び市民の三者が有する人材、資力などを総合的に活用することによって市民福祉を振興するための事業を創造・推進させ、そのことにより市民福祉の向上に寄与することを目的とした事業を運営している。

平成22年度は、協会を取り巻く環境の変化や市の市民福祉に係る施策の方向を踏まえ、より一層の運営改善を図るため策定した「中期経営計画2010（計画期間：平成20年度から平成22年度の3ヶ年）」の最終年次であり、引き続き効率的な経営に取り組むとともに、市民福祉を振興するための各種事業に取り組んだ。

平成22年度事業報告

1 福祉意識の啓発

市、事業者及び市民の三者の連携による市民福祉の理念への理解を深めるための啓発事業を実施した。

(1) 情報誌の発行

市民福祉の啓発と協会の事業紹介を目的として、情報誌「市民ふくし～しあわせの村だより」を発行した。

発行回数 年6回 (年6回)

発行部数 15,000部/回 (15,000部/回)

※ 以下()内の数値は、特に記載のあるものを除き21年度実績である。

(2) 協会ホームページの運営

協会の経営情報を含め市民福祉振興のための協会の取り組み内容を幅広く情報発信をするため、ホームページを運営した。

(3) 福祉機器展示コーナーの運営及び福祉機器リサイクル事業の実施

① 福祉機器展示コーナー

身体障がい者や高齢者の快適な生活を支援するために、市立心身障害福祉センター内に福祉用具や介護用品などの日常生活に必要な用具・用品を展示するとともに、最新の福祉機器情報を提供する「福祉機器展示コーナー」を運営した。

展示福祉用具 電動ベッド, 車いす, 歩行器, 入浴補助用具, 手すりなど約500点
来場者数 4,137人 (4,538人)
相談件数 1,859件 (1,354件)

② 福祉機器リサイクル事業

福祉機器展示コーナーに「善意の品物交換情報」の掲示板を設置し、使用していない福祉用具(車いす, ベッドなど)のリサイクル情報の提供, 仲介, 調整を行うとともに, 必要な場合に運搬費などの援助を実施した。

[福祉機器リサイクル事業の実績] (件数)

① 申込件数	135 (142)
譲ります	63 (77)
譲って	72 (65)
② 契約成立件数	54 (38)
ベッド	20 (19)
車いす	29 (15)
その他	5 (4)
③ 運搬費等支援件数	7 (9)

(4) 「しあわせの村」等での啓発事業

① 「ふれあい体験学習」の実施等

社会福祉に関心を持つグループ・学校・企業などを対象に、福祉に関する講義, 車いす, 白杖及び高齢者擬似体験用具を用いた介助実習, 村内福祉施設での実習並びに車いす等の貸し出しを行った。

ア ふれあい体験学習

27団体 1,641人 (28団体 1,721人) ※次の重複利用を除く純計
・車いす, アイマスク体験 27団体 1,351人 (26団体 1,590人)
・高齢者擬似体験 5団体 290人 (11団体 565人)
・村内施設実習 4団体 340人 (7団体 473人)

イ 車いす・アイマスク・高齢者擬似体験用具の貸し出し
17団体 (25団体)

② 介護研修の開催

「しあわせの村」婦人交流施設「たんぼぼの家」において、介護知識・技術の取得などを目的とした在宅介護者への介護研修を行った。

2回 32人（3回 19人）

③ 「第21回こうべ福祉・健康フェア」の開催

社会福祉施設及び障がい者団体による模擬店の出店や健康に関する正しい知識の普及・啓発を行うことにより、互いに福祉や健康について語り合い、ふれあう機会として「こうべ福祉・健康フェア」を、神戸市等との共催により開催した。

開催日 平成22年10月3日 参加者数 8,000人(10,000人)

④ 障がい者就労カフェの運営

障がい者就労の場の拡充と来村者への福祉意識の啓発を目指し、「しあわせの村」総合センター1階において、障がい者と健常者がともに働く障がい者就労カフェの運営を行った。（平成22年4月1日オープン）

利用者数 65,179人

⑤ 授産品及びユニバーサルデザイン製品展示・販売コーナーの運営

「しあわせの村」総合センター1階において、市内障がい者施設の授産品やユニバーサルデザイン製品の展示・販売コーナー（愛称「はっぴねすコーナー」）の運営を行った。

[授産品展示・販売コーナー] 6施設 計約90種

[ユニバーサルデザイン製品展示コーナー] 3団体 計約53種

⑥ 福祉ショップ等における授産品販売機会の提供

「しあわせの村」内の障がい者団体の運営する福祉ショップや温泉健康センター内直売所「しあわせマルシェ」及び新たに、保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺において、市内障がい者施設の授産品の販売の場を提供した。

なお、「しあわせの村」たんぼぼの家内の福祉ショップについては、運営団体の交替に際し、障がい者の就労機会を拡大できるよう公募条件を設定し、決定した。

また、「しあわせの村」においては、村内障がい者施設による授産品の合同販売会(年5回)を行った。

2 市民の福祉活動の振興

市民の福祉活動への参加を促進し、市民福祉を維持し高めるための事業を行った。

(1) 社会福祉事業・福祉活動への助成

市内で意欲的に活動しているボランティアグループや社会福祉活動を行っている団体を対象に、備品購入費等の助成を行った。

助成件数 16件 助成金額 5,240千円（13件 4,170千円）

(2) ボランティアの養成を目指した講座の開催

- | | | | | |
|----------------|------|------|-------|-------|
| ① 手話講習会受講者 | 年26回 | 30人 | (年26回 | 30人) |
| ② 点訳講習会受講者 | 年25回 | 20人 | (年25回 | 22人) |
| ③ ボランティア研修・交流会 | 年2回 | 延13人 | (年2回 | 延40人) |

(3) 高齢者による地域貢献活動の支援

主として卒業生で結成するNPO法人「社会還元センターグループわ」とも連携しながら、シルバーカレッジの学生が地域で行う福祉施設等での慰問活動や、小学校・特別支援学校での子どもたちの学習支援活動等のボランティア活動に対する支援を行った。

3 市民福祉事業の企画及び実施

福祉を取り巻く社会経済情勢の変化に対応しながら、市民福祉の向上のための事業を企画実施した。

(1) 障がい者就労カフェ事業

平成22年4月1日にオープンした障がい者就労カフェについて、他の公共施設等がノウハウを共有することにより、障がい者就労の場が拡大することを目指し、検討から実現にいたる経緯等をまとめた報告書を作成した。

(2) ユニバーサルデザインの推進

- ① 市が進めるユニバーサルデザインの一環として、協会において策定した「ユニバーサルデザイン推進指針」に基づき、当事者の意見を反映しながら、誰にでもやさしい「村」づくりを進めた。
 - ・ 野外活動センターあおぞらに「こうべ・だれでもトイレ(多機能トイレ)」(村内計5カ所目)と「授乳室・おむつ替え室」を設置
 - ・ 子どもや車いす利用者にも対応した二連式ウォータークーラーを温泉健康センターに設置
 - ・ 視覚障がい者歩行誘導マット及び音声案内の試用(総合センターロビー)

② 障がい者施設やボランティア団体と連携し、市の開催する啓発イベント等に参加・協力した。

- ・ 「こうべユニバーサルデザインフェア2010」等への出展
- ・ 「こうべUD大学」, 「夏休み子どもUD教室」等への参加・協力

4 高齢者等のための市民福祉施設の管理運営

(1) サン舞子マンションの管理運営

サン舞子マンションの入居者に住居と健康管理・食事その他の提供を行った。なお、マンションの管理運営は、マンションの一部（北1・2号館）の跡地でケアハウスを運営する社会福祉法人神港園に委託した。

当事業については、事業終息方針に基づき、入居者全員の同意を得て、必要な改修工事を行うとともに、土地・建物の売却と事業承継に関し、優先交渉権を有する同法人と契約を締結し、平成23年4月1日をもって、事業終息した。

なお、協会としては、事業終息後も引き続き入居者の相談窓口等のフォローを行うこととしている。

年度末入居戸数 26戸(32戸), 入居者数 29人(35人)

(2) 垂水海浜センターの管理運営

市民の教養文化の向上と福祉の増進を図るため、垂水年金会館及び駐車場の管理運営を行った。

[利用状況]

施設内容	利用人数・台数	利用件数
垂水年金会館	92,787人 (97,323人)	
ホール・会議室	59,220人 (58,152人)	2,061件 (2,147件)
児童館	7,350人 (9,302人)	
地域福祉センター	15,065人 (19,602人)	
区社協ボランティアセン	11,152人 (10,267人)	
駐車場	17,386台 (17,826台)	

(3) 保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺（なでしこの湯）の運営

高齢者及び障がい者をはじめ、多数の市民に保養と健康維持の場として利用されている保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺（愛称「なでしこの湯」）について、民間事業者による運営を行った。

また、今後も施設を安全・良好に運営していくため、一時休館し、ユニバーサルデザイン化を含む大規模改修工事を行うとともに、改修後の運営を行う新たな事業者を公募・選定した。

[利用状況]

施設内容	利 用 人 数
宿泊棟	8,940人 (10,608人)
温泉棟	209,624人 (262,792人)

(※ 宿泊棟・温泉棟ともに、9月1日から11月30日までの間、改修工事のため休業)

5 神戸市からの委託による市民福祉事業の実施

介護保険法に基づき、公正・公平が要求される「要介護認定調査業務」及び地域包括支援センター(市内74か所)の「巡回調査業務」を市からの委託を受けて実施した。

認定調査業務 指定市町村事務受託法人として、新規・変更ケースの認定調査
調査件数 26,114件 (23,590件)

巡回調査業務 地域包括支援センターを対象に、介護予防ケアマネジメント業務に対する調査・助言やセンターの運営状況の確認 など
訪問回数 延1,822回 (延1,821回)

6 総合福祉ゾーン「しあわせの村」の運営

「神戸市民の福祉をまもる条例」の基本理念である「自立と連帯」の実現をめざし、高齢者・障がい者をはじめとするすべての市民があたたかいふれあいの中で思いやりや助け合いの心を育み、「つどい」・「楽しみ」・「学び」・「憩う」場として、「しあわせの村」の総合的運営を行った。

21年度は、新型インフルエンザによる施設利用のキャンセルや温泉・プールの大規模改修による長期休業のため、大幅に利用者が減少した年であったが、22年度は21年度と比べると、野菜・鮮魚等の直売所の開設等の効果もあり、利用者は増えている。

[平成22年度「しあわせの村」利用状況]

	利用者等	対前年度比	収入額
入村者総計	1,807,900人 (1,752,100人)	103.2%	
入村車両総数	1,529,889台 (1,529,211台)	100.0%	
有料車両数	314,075台 (318,523台)	98.6%	136,940千円
施設利用者合計	1,069,710人 (1,042,274人)	102.6%	
宿泊施設	82,942人 (81,060人)	102.3%	231,191
宿泊館(総合センター)	35,183人 (33,558人)	104.8%	119,838千円
たんぼぼの家	11,638人 (11,411人)	102.0%	46,699千円
あおぞら	24,476人 (24,977人)	98.0%	39,701千円
保養センターひよどり	11,645人 (11,114人)	104.8%	33,781千円
研修館	99,147人 (93,130人)	106.5%	7,452千円
温泉	229,818人 (218,449人)	105.2%	103,518千円
屋内運動施設	299,694人 (295,762人)	101.3%	52,516千円
プール	102,513人 (100,215人)	102.3%	30,037千円
体育館	110,145人 (111,344人)	98.9%	10,817千円
トレーニングジム	87,036人 (84,203人)	103.4%	11,662千円
屋外運動施設	357,651人 (353,575人)	101.2%	56,686千円
茶室	458人 (298人)	153.7%	298千円

(1) 施設の管理運営

専門的能力を有する事業者と共同事業体を構成し、「指定管理者」として運営を行った。

協会は、共同事業体代表法人として、運営全体の総合調整を行うとともに、利用者の安全・安心の確保や園地・駐車場の管理、シルバーカレッジの運営を行った。

また、市民福祉の理念のさらなる実現を目指し、福祉的事業や市民ふれあい事業等を企画・実施した。

一方、各施設の管理運営については、共同事業体各構成団体が互いに連携をとりながら、専門的能力を発揮することにより、全体として利用者サービスの向上に取り組み、市民福祉の拠点施設である「しあわせの村」の事業運営の充実を図った。

(2) ユニバーサルデザインの推進（再掲）

「3 市民福祉事業の企画及び実施」の(2)参照

(3) 健康づくりの支援

「しあわせの村」が市民の健康づくりの拠点としての機能をさらに発揮できるように、ソフト・ハード両面での充実に取り組んだ。

- ① 「保養センターひよどり」において、高齢者の健康維持増進を目指し、軽スポーツや医師の講話等を行う健康教室やデイサービス事業を実施した。

健康教室 10回 115人（10回 112人）

デイサービス 148回 2,033人（147回 1,965人）

- ② 男性高齢者の食生活の改善や自立を支援することを目的に、調理の基礎知識から指導する「60歳からの男性料理教室」を実施した。

3回 72人（3回 72人）

- ③ 村内各施設において、高齢者・障がい者の健康増進、心身機能の維持・回復や生きがいづくり等を目的に各種スポーツ教室を実施した。

[高齢者向けスポーツ教室]

教室名	参加者数
水中健康体操	116人（124人）
高齢者水泳	186人（188人）
卓球	129人（120人）
バドミントン	55人（62人）
テニス	215人（161人）
アーチェリー	155人（158人）
合計	856人（813人）

[障がい者向けスポーツ教室]

教 室 名	参 加 者 数
身体障がい児親子水泳	100人 (99人)
知的障がい児親子水泳	138人 (150人)
身体障がい者水泳	107人 (84人)
知的障がい者水泳	94人 (101人)
身体障がい者・児卓球	65人 (65人)
身体障がい児運動あそび	17人 (15人)
知的障がい児運動あそび	23人 (22人)
身体障がい者テニス	89人 (60人)
身体障がい者アーチェリー	71人 (73人)
合 計	704人 (669人)

[リハビリ水泳教室] 356人 (363人)

[ニュースポーツ(バスケ・ボウリング・剣道等)教室] 201人 (-)

④ 村内で開催されるKOBE OPEN国際車いすテニストーナメント(4月), 神戸カップグラウンドゴルフ大会(4月), 関西学生対抗女子駅伝競走大会(9月), しあわせ健康駅伝(12月), KOBEトラック&フィールドスクール(年5回)等のイベントについて, 支援・協賛した。

⑤ 市民が気軽にウォーキングによる健康づくりに取り組めるよう, 歩道舗装の整備等により安全で快適な環境を維持するとともに, 村内のウォーキングコースをもとに, 所要時間や消費カロリー及びコース内の自然等を紹介したウォーキングマップを作成した。

(4) 高齢者・障がい者の自立や社会参加への援助

「しあわせの村」の理念を実現するため, 共同事業体各構成団体と連携して, 村内の業務の中で高齢者・障がい者の就労の場の確保を図るとともに, 自立や社会参加のための活動を援助した。

① 「しあわせの村」の運營業務に従事する職員に, 高齢者・障がい者を雇用した。

雇用者数 79人 (84人)

② 村内の園地管理, 空き缶回収, ゴミ分別収集業務を(株)いくせいに委託し, 知的障がい者の就労機会の確保を図った。

就労者数 46人 (46人)

- ③ 村内の園地管理やキャンプ場の受付等において、シルバー人材センターへの委託や人材派遣により、高齢者の就労機会の確保を図った。
就労者数 32人 (30人)
- ④ 村内の管理業務の一部を村内の障がい者施設に委託して実施した。
- ・ 宿泊館リネンの交換・清掃 (ワークホーム緑友, グリーンホーム平成)
 - ・ 保養センターひよどり周辺の園地管理 (ワークホーム緑友)
 - ・ プール・体育館の清掃 (ワークホーム緑友)
 - ・ 自動販売機の管理 (ワークホーム明友)
- ⑤ 「しあわせの村」の自然資源等を活用した名刺を市内障がい者施設(御影倶楽部)と共同で製作した。
- ⑥ 業務に必要な物品を村内外障がい者施設から購入した。
- ・ 客室用瓦せんべい(ワークホーム須磨)
 - ・ ポリ袋(ワークホーム明友)
- ⑦ 村内に飾るバナーの製作などを村内社会福祉施設に依頼した。
- ⑧ ユニバーサル農園において、レクレーションや機能回復等の一環として、村内の福祉施設と協働で、野菜等の栽培・収穫を行った。
また、11月には、日頃、土と触れ合う機会の少ない、重度の障がい者等も参加して“収穫祭”を行った。
- ⑨ 障がい者就労カフェの運営 (再掲)
「1 福祉意識の啓発」の(4)④参照
- ⑩ 授産品及びユニバーサルデザイン製品展示コーナーの運営 (再掲)
「1 福祉意識の啓発」の(4)⑤参照
- ⑪ 福祉ショップ等における授産品販売機会の提供 (再掲)
「1 福祉意識の啓発」の(4)⑥参照

(5) 市民ふれあい事業の企画及び実施

すべての市民が「つどい」・「楽しみ」・「学び」・「憩う」場を提供するため、村内の施設が一体となって行うイベントなどを企画し、実施した。

① 第20回しあわせの村まつりの実施

村内の施設や地域住民が一体となって、広く市民が交流する場として、しあわせの村まつりを開催した。

開催日 平成22年7月31日 参加者数 19,000人(3,000人)

※21年度は雨天のため屋内イベントのみ実施

② 第23回こうべ長寿祭の開催

スポーツや文化活動を通じて、高齢者の心身の健康保持・増進を図り、長寿社会における健康と福祉に関する市民の理解を深めることを目的として「こうべ長寿祭」を開催した。

また、「全国健康福祉祭」へ神戸市代表を派遣した。

ア 第23回こうべ長寿祭 平成22年4月26日～10月30日

○ スポーツ大会 13種目

ゲートボール、テニス、バドミントン、卓球、家庭バレーボール、ペタンク、ソフトテニス
ソフトボール、弓道、ゴルフ、グラウンドゴルフ、剣道、ふれあいウォークラリー
参加者数 2,719人(2,864人)

○ 文化行事

・全国シルバー合唱コンクール 平成22年9月17日

35団体 1,571人(36団体 1,644人)

・囲碁、将棋

参加者数 97人(87人)

・美術作品展

出展数 202点(263点)

イ 第23回全国健康福祉祭いしかわ大会(ねんりんピック石川2010)

平成22年10月9日～12日

開催地 石川県 金沢市他12市町村

神戸市代表 126人 12点(125人 12点)

③ ふれあいイベントの実施

各種のイベントを企画し、村内施設の利用者や市民グループなどが参画する機会を提供するとともに、高齢者・障がい者、ボランティア、来村者などすべての市民が交流する場を提供した。

ア 第20回ふれあいコンサート [4月18日]

公募による障がい者、高齢者、ボランティア活動を行っている音楽グループが出演するコンサートを行った。

出演者数 27団体 369人 (27団体 314人)

来場者数 750人 (700人)

イ わいわいストリート [5月5日]

親子で楽しく遊べる昔あそび等を「グループわ」と共催し、世代間交流の場を提供した。

参加者数 950人 (750人)

ウ マンスリーミニコンサート [毎月1回]

総合センターエントランスホールにおいて、神戸市混声合唱団によるコンサートを開催した。

来場者数 計3,530人 (計3,640人)

エ リサイクルバザー [6月6日、9月26日、11月14日、3月27日]

資源の有効活用を目的に、市民出店者による不用品等のリサイクルバザーを開催した。

来場者数 計48,000人 (計49,000人)

オ かえっこバザール [8月8日]

シルバーカレッジにおいて、学生や「グループわ」との協働により、使わなくなった玩具の交換等を行い世代間交流の場を提供した。

参加者数 600人 (650人)

カ 緑のオリエンテーリング [7月19日、11月3日]

参加者が村の豊かな自然環境を体感しながら、クイズラリーなどを楽しめるオリエンテーリングを開催した。

参加者数 計450人 (320人) ※21年度は1回

④ 市民公募型イベントの実施

来村者が気軽に参加し楽しめるとともに、福祉や健康の増進並びにしあわせの村の活性化につながるイベント企画を公募し、運営経費の一定額を助成した。

「しあわせの村カップ風船バレー」(5月2日) 参加者数 375人

「室内合奏団 THE STRINGS 特別公演」(11月3日) 来場者数 295人

⑤ ファミリー日帰りキャンプの実施 [9月5日]

身体・知的障がい児とその家族がボランティアとともにゲームやキャンプを楽しむデイキャンプを実施した。

参加者数 104人 (88人)

⑥ 親子料理教室の開催 [8月21日, 29日, 12月4日, 5日, 12日]

子どもが食材に触れ、楽しみながら食に関心を持つとともに、料理を通じた親子のふれあいの場を提供した。

参加者数 65人 (81人)

⑦ 「ふれあい体験学習」の実施(再掲)

「1 福祉意識の啓発」の(4)①参照

⑧ 「第21回こうべ福祉・健康フェア」の開催(再掲)

「1 福祉意識の啓発」の(4)③参照

(6) ボランティアの養成と活動推進

「しあわせの村」の理念を実現するには、村でのボランティア活動の果たす役割も大きいことから、ボランティア養成に係る講習会を開催するとともにボランティアが活動しやすい環境の整備や活動機会を積極的に提供した。

① ボランティアの養成を目指した講座の開催(再掲)

「2 市民の福祉活動の振興」の(2)参照

② ボランティア活動の推進

協会が主催する事業にボランティアの参加を広く求め、活動の場の提供と活動の支援を行った。

ア 障がい児、障がい者向けスポーツ教室の指導補助

登録48人 延1,433人 (82人 延1,313人)

イ 各種イベントの運営補助

登録42人 延 52人 (89人 延 59人)

エ 花・緑ボランティア

登録61人 延 278人 (68人 延 312人)

オ 村内活動サークルのボランティア

○ 点訳サークル「シックスポイント」 登録36人（32人）

（活動内容）点訳講習会講師派遣，村内各種表示の点訳，イベントにおける点字コーナー等の出展

○ 手話サークル「すずらん」 登録49人（49人）

（活動内容）手話講習会修了者のスキルアップ，聴覚障がい者への情報提供と交流促進，協会主催イベントでの手話通訳

(7) 魅力ある緑地の維持管理

一年中花が見られ，市民の憩いとリフレッシュの場として人気が高い「しあわせの村」の緑地について，引き続き快適な空間として良好に維持管理するとともに，「水仙ロード」の拡張等さらなる魅力の向上に取り組んだ。

また，「しあわせの村」の豊かな自然環境を生かしたイベントとして，月見の夕べや日本庭園における桜や花菖蒲のライトアップ，野鳥観察会などを行い，季節を感じる話題づくりによるイメージアップを行った。

(8) 神戸市シルバーカレッジの管理運営

① 高齢者の豊富な経験を活かして自らの可能性を拓き，その成果を社会に還元することを目指す学習・交流の場として，シルバーカレッジの管理運営を行った。

ア 学生数

・定員 1,260人（1学年 420人）

・在籍者数 1,186人（平成22年度末現在，休学者を含む。）

イ 入学資格

市内に住所を有する57歳以上の方

ウ コース編成

・健康福祉コース

・国際交流・協力コース

・生活環境コース

・総合芸術コース（美術・工芸，音楽文化，園芸，食文化）

エ 授業

共通・専門・地域交流・スポーツ授業を組み合わせたカリキュラムにより，ボランティア精神を培えるよう実施した。

オ 社会還元

在校生の地域交流グループ、ボランティアグループ及び卒業生を中心とするNPO法人「社会還元センターグループわ」が、地域で各種社会還元活動を行い、建学の精神を実践した。

・地域交流グループ

グループ数 62グループ 活動参加者数 延8,285人(62グループ 延6,466人)

・ボランティアグループ

加入者数 延1,590人 活動参加者数 延14,671人(延1,538人 延13,345人)

・グループわ

登録会員数 1,153人 活動参加者数 延22,186人(1,146人 延21,444人)

② 公開講座等の実施

広く一般市民に学習機会を提供するため、親子サマースクール、まちかどキャンパス(長田区)、一般聴講講座(7回)を開催した。

③ 卒業生の主なボランティア活動実績

ア シルバーパソコン講座の実施 活動 延 427人(延 508人)

受講 延1,435人(延1,342人)

イ 地域における介助・生活支援等福祉ボランティア、施設への慰問

活動 延7,196人(延6,169人)

ウ 外国人への日本語指導・生活相談、留学生との交流会の実施

活動 延 596人(延 433人)

エ 里山づくり等環境保全、環境教育活動

活動 延4,415人(延3,594人)

オ 地域での青少年育成事業、イベント運営及びガイド等

活動 延5,895人(延7,308人)

カ 小学校・特別支援学校での子どもたちの学習支援活動等

活動 延3,176人(延2,134人)

キ スポーツによる健康づくり、いきがいつくりの支援

活動 延 481人(延1,298人)

(9) 利用促進の取り組み

共同事業体各構成団体と連携して、「しあわせの村」への理解を一層深めていただくとともに、来村者誘致や魅力づくりを行った。

① 全村的な入村者アンケートを実施する(10月)とともに、各運営施設において把握した意見やアンケート結果についても、情報を共有し、具体的な改善策やサービス向上策を検討し、利用者満足度の向上に取り組んだ。

- ② 共同事業体全構成員の参画による「おもてなしサービス向上検討委員会」を設置するとともに、「おもてなし標語・キャッチフレーズ」を選定するなど、しあわせの村で働く全てのスタッフのおもてなし意識の向上に取り組んだ。
- ③ 温泉健康センター内に地場野菜や鮮魚等の直売所「しあわせマルシェ」を新たに設置し、運営を行った。（平成22年5月1日オープン）
- ④ 駐車料金の平日夜間無料サービス時間を19時以降から18時以降へと拡大した。（平成22年9月から）
- ⑤ 温泉健康センターと近隣地区（鈴蘭台，北須磨団地）を直結する無料シャトルバスの運行を開始した。（平成22年12月から）
- ⑥ 宿泊等団体客向けに無料送迎バスの運行を開始した。（平成22年11月から）
- ⑦ 施設の案内やイベント等の新着情報を掲載したホームページを運営した。
アクセス件数 1,686件/日（1,613件/日）

7 業務・経営改善の推進

協会では、平成20年度から3ヵ年の基本方針及びこれに基づく重点施策を示した「中期経営計画2010」を策定し、年次行動計画(アクションプラン)のもとで計画の実現に向け取り組んできた。

計画の最終年次である平成22年度は、「しあわせの村」事業においては、民間事業者と連携しながら、利用者サービスの向上等に取り組み、21年度の新型インフルエンザの影響から幾分回復したものの、入村者数及び施設利用者数については、計画目標を達成することができなかった。

職員配置においては、引き続き市派遣職員の固有職員等への置換えを行った。また、新公益法人への移行を踏まえて、今後の事業展開や経営基盤の強化、組織運営のあり方を含めた「中期経営計画2014」の策定に取り組んだ。

8 「神戸市民からの救援物資募金」の実施

東日本大震災により、困難な生活を続けている被災地の皆様を、できる限り早期に支援したいとの市民の強い思いを受け、緊急に必要な支援物資を送付するため、救援物資募金を実施するとともに、応援メッセージの募集も行い、被災地へ届けた。

[募金期間] 平成23年3月17日～4月15日 [募金金額] 34,028,632円